

彫 塑 系

審 査 評

《Broken Heart》心＝ハートを思わせる形（でも、正確にはハート形ではない）に、膝を抱えた女性が浮き彫りのように描かれる。完全な形と、壊れた心を象徴する、割れてしまった形と両方で表される。橙と灰の淡い色の対比も印象的である。詩的であり、現実の傷心を芸術的に昇華し得ている。それがとても良い。

写真も陰翳を効果的に捉えて撮影しており、彫刻ならではの美を視覚で楽しませてくれる。

《まなざし》は題名どおり力のあるまなざしが印象的な作品である。土づけも迷いがなく、作者の人間を見る眼に深みがある。肖像はよほど知名の士をモデルにしない限り、似る、似ないは鑑賞者にとって二の次となる。また、塑造の場合、目はモノクロームの世界ゆえ、黒目と白目の区別もつけない。それでも肖像彫刻を見ると、皮相の相似を離れ、自ずと感得するものがある。完全ではないが、本作にはそれがある。

他に思い切ったテーマの等身大木彫像や、頭像、胸像があり、それぞれ意欲的に制作を楽しんでおられる様子であったが、未消化の部分もあり、今回は取らなかった。

（井原市立田中美術館主任 青木寛明）